

「がん検診が重要」

室蘭・港北中で製鉄記念病院 前田院長講演

早期発見の大切さを伝える



早期発見の重要性などを学んだがん教育

室蘭市港北中学校(松山周司校長、209人)で29日、社会医療法人製鉄記念室蘭病院の前田征洋院長を講師に招いたがん教育が開かれ、3年生87人が早期発見の大切さと検診の重要性を学んだ。

前田院長は「がんは特別な病気ではない」と前置きし「早期発見で9割以上が完治可能です。検診で発見される70%ほどが早期のがんです」とし、がん検診を受ける重要性を強調した。

胃がんの原因になるピロリ菌についても説明し、除菌治療で発病する確率を減少させられることも伝えた。

生徒の荘司明日美さんは「今まではがんは完治しないと思っていました。勉強になりました」と話していた。

がん教育は室蘭市保健福祉部と市教委の連携事業で、室蘭市医師会が協力。同校では初めて実施した。

(池田勇人)